



はやね はやおき 朝ごはん テレビを止めて外遊び

# きずな

～きらきら にこにこ いきいき～

平成29年度  
別海町立上西春別小学校  
学校だより No.5  
平成29年7月25日  
発行責任者  
校長 奥村 繁義

## 子供たちの自主にむけて

今日で75日間の登校日を過ごした1学期が終了し、明日から待ち望んでいた夏休みが始まります。1学期を振り返りますと、どの学年も授業に集中し、落ち着いた学校生活を送ることができました。運動会に代表する学校行事や学年の体験的な学習も目的やねらいを達成することができ、子供たち一人一人の成長を感じております。地域の皆様や保護者の皆様には、ご理解とご協力をいただきましたことに感謝いたします。子供たちの健やかな成長を目指して、次の高い目標に向かって教育活動を進めて参りたいと考えております。



ここで、戦国時代のエピソードを1つ紹介します。

駿河の国(今の静岡県)の今川義元は、松平家の竹千代(後の徳川家康)を人質にとりました。

義元は家来に対し、「竹千代には、おごい教育をせよ。」と命じたのです。義元の考えを知らない家来は、竹千代に粗末な食事を与え、ほとんど休みなしで武術を教え込む生活をさせたのです。これを聞いた義元は大変怒り、このように言ったのです。

「人質の竹千代には朝から晩まで、海の幸や山の幸あふれる贅沢なご馳走を好きなだけ与えてやれ。寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝かせてやれ。夏は暑くないように、冬は寒くないようにしてやれ。学問が嫌だと言うならやらせるな。何事も、好き勝手にさせたらよい。」

最後に、今川義元はこう言ったのです。「そのようにすれば、たいていの人間はだめになるから。」

上記のエピソードから、教育・子育てにおいて何が大切なのか考えさせられることがたくさんあります。学校で行う教育活動と各ご家庭の子育ては、その方法がそれぞれ違いますが、目指すべきものは同じです。これからの社会を担い、仕事に励みながら自分の力で生活していく力や社会と関わりながらよりよく生きていく力を育てることで、言い換えると子供たちを自立させることです。

「むごい教育」はそうした考え方と対極にあつて、自立の芽を摘む教育です。現代の社会は、物や食べ物も豊富にあり、生活は便利になり、欲しい物はすぐに手に入る時代です。「むごい教育」を行うための条件がすべて整っているとんでも過言ではありません。私たち大人は、「贅沢をしすぎないこと」「辛抱・我慢をすること」「自分の思い通りにならない経験を積むこと」「学習は好き嫌い関係なく取り組むこと」を意識して、教育・子育てに尽力していきたいと考えています。

明日からは家庭生活が中心となる、23日間の夏休みになります。家族と触れ合う時間をたくさんもっていただいたり、「早寝早起き朝ごはん」を意識した規則正しい生活が送れるように支援をお願いします。事故にあわない、けがをしない、元気な毎日が過ごせるように声をかけてあげてください。そして、8月18日の二学期始業式には、さらにたくましくなった姿で登校できることを願っています。

家庭・地域の皆様方には、引き続き暖かなご支援とご協力をお願いいたします。



そ う じ の 様 子

校 長 奥 村 繁 義